



# 弘前大学同窓会報

## 第21号

発行日 令和2年3月1日  
発行者 弘前大学同窓会  
題字 吉田 豊 元学長

### 創立70周年記念事業報告

本同窓会報過去2号に渡ってご紹介いたしました創立70周年が、間もなく終わります。まずもって、この度の記念事業にご参加いただいた同窓生の皆様に厚く御礼申し上げます。また記念事業実施に際して2017年10月から2019年12月まで募金をお願いした結果、総額約1億1千万

円の募金が集まり、各種事業を盛大に実施できましたことに厚く御礼申し上げます。

さて記念事業は(1)式典等祝賀行事(2)七十年史編纂(3)記念小公園の整備(4)国際交流事業(5)学生参加事業(6)将来の教育研究の向上に資する基金の設立、以上6つを

主な事業として行われました。これらのうち、2019年6月1日に開催された式典等祝賀行事が、中心的事業ではありますが、これに前後する形で、他の5事業ならびに関連事業が行われました。ここではそのいくつかについて報告いたします。(弘前大学総務部)

#### 記念ロゴマーク

創立70周年の気運を高めるため、2018年に記念ロゴマークの制定を開始しました。15点の候補が挙がり、同年5月21日から6月1日に記念ロゴマーク総選挙を行い、5点に絞りました。最終選考の結果、大学院教育学研究科2年小杉奈央さんの作品が選ばれました。



記念ロゴマーク

#### リレー学術講演会

弘前大学における研究成果を専門外の方々にわかりやすく発信し、学術研究を通じた地域との交流と対話を行うことを目的に、2019年4月から9月まで全5回の70周年記念リレー学術講演会が行われました。第1回(4月20日)は教育学部の和田美亀雄教授と杉原かおり教授による「音楽の魅力 トロンボーンと声楽のコンサート」、第2回(5月11日)は理工学研究科の浅田秀樹教授による「宇宙の魅力」、第3回(6月8日)は人文社会科学部の関根達人教授による「お墓の魅力」、第4回(7月13日)は農学生命科学部の柏木明子准教授による「微生物の魅力」、第5回(9月14日)は医学研究科の大山力教授による「医学の魅力」と題した講演でした。全ての講演に出席した方へ、受講証明書及び70周年記念グッズなどをまとめた記念品が贈られました。



リレー学術講演会 第1回の様子



全講演出席者への贈呈式



式辞を述べる佐藤学長



講演する本庶特別教授

人の聴衆が聞き入りました。

この日の最後は、会場を移して記念祝賀会が行われ、櫻田宏弘前市長、岩淵明岩手大学長、山本文雄秋田大学長から祝辞をいただき、弘前大学フィルハーモニー管弦楽団弦楽五重奏団の演奏や弘前大学津軽三味線サークル及び弘大囃子組によるアトラクションが披露され、盛大に節目の年を祝うと共に、弘前大学のさらなる発展を祈念しました。



祝賀会での鏡開き



祝賀会アトラクション

#### 記念小公園と式典等祝賀行事

2019年6月1日には、70周年記念事業のメインイベントである式典等祝賀行事が行われました。まず、文京キャンパス内に整備された「太宰治記念小公園」において、記念碑・像の除幕式が行われ、レリーフ制作者である教育学部の塚本悦雄教授による作品紹介と、太宰治の孫にあたる津島淳氏からの祝辞がありました。次に、弘前市民会館において、記念式典が挙行されました。弘前大学フィルハーモニー管弦楽団の演奏で華やかに幕を開けたのち、佐藤敬学長から「この70年間の最も大きな実績は地域の高等教育の需要に応えてきたことと、数多の人材をこの地域を中心に輩出してきたこと。地域連携による教育研究の成果を世界レベルにまで高めていくことを目指して努力を続ける」との式辞がありました。来賓を代表して松尾泰樹文部科学省科学技術・学術政策局長から文部科学大臣の祝辞を、青山祐治青森県副知事から青森県知事の祝辞をいただきました。また、記念事業後援会会長の遠藤正彦前学長に感謝状が贈呈されました。

式典に引き続き、本庶佑京都大学高等研究院副院長・特別教授による「獲得免疫の驚くべき幸運」と題した記念講演が行われ、会場を満す約1,100



太宰治のレリーフ



管弦楽団によるオープニング演奏

#### 七十年史編纂

2009年の創立60周年にて刊行された『弘前大学六十年史』に続く10年の歩みが、『弘前大学七十年史』としてまとめられ、2019年6月1日に刊行されました。七十年史は、弘前大学学術情報リポジトリからダウンロードできる他、弘前大学附属図書館本館ならびに医学部分館にて貸し出されています。



附属図書館本館2階の展示架

#### 国際交流事業

本学の協定校であるフランスはボルドー・モンテーニュ大学のエレヌヴェラスコ・グラシエ学長を招聘し、2019年8月1日に記念学術講演会「ワインの新しい世界」が開催されました。フランス語での講演ではありましたが、市民の皆様を含む多くの熱心な聴講がありました。



講演するグラシエ 学長

#### 学生参加事業

年間を通して、計9学生団体による学生参加事業が行われました。そのうちの4団体の代表学生と、西澤一治同窓会長、佐藤敬学長を交えた、学生参加事業についての座談会企画記事を、本会報2～3ページに掲載しています。

#### オリジナル記念品

創立70周年を記念して、青森県内で製造された記念ラベルワインや弘前のねぶた絵をデザインしたうちわ等のオリジナル記念品を製作し、記念式典及び祝賀会列席者や高額のご寄附をいただいた方々へのお礼の品としました。



ワイン

うちわ



# 人文社会科学部



## 『自我作古』

人文社会科学部同窓会 会長 建部 礼仁  
(昭和54年 人文学部経済学科卒)

昭和54年3月、弘前大学人文学部経済学科卒業の建部礼仁です。令和元年7月6日に開催された第11回同窓会総会で、「弘前大学人文社会科学部同窓会」会長に就任いたしました。

岡井真前会長には、10年の長きにわたり会長をお引き受け頂き、また多大なご指導を頂きました。心から感謝申し上げます。

本同窓会は、令和元年7月6日の総会におきまして、名称を「人文学部同窓会」から「人文社会科学部同窓会」へと変更いたしました。平成28年度の弘前大学学部改革により、学部名が「人文学部」から「人文社会科学部」へと変更となったものの、これまで「人文学部同窓会」の名称のまま人文社会科学部卒業予定者を含んだ形で同窓会事業を継続してまいりました。令和2年3月に、最初の人文社会科学部卒業生が出ることを踏まえ、名称を「人文社会科学部同窓会」へ変更することとしたものです。

本同窓会は、平成11年3月13日に長い陣痛の末に産声を上げています。このくだりは、同窓会ホームページの沿革の欄に初代会長で、現顧問でいらっしゃる千代谷満氏が詳細に記しておりますのでご参照ください。

当時の会長としてのご挨拶の中で、「この同窓会は、単に過去を慈しむものではなく、我々の和を将来に向かって育てていき、さらに最も大事なことのひとつは、弘前大学そのものに対する『支援の心の醸成』と『現役学生に対する助言と支援』でなければならない」と述べられています。

同窓会事業内容は(1)卒業祝賀会と大学院修了祝賀会を人文社会科学部の教員団体である新和会との共催で行う(2)毎年の卒業・修了祝賀会で優れた成果をあげた学生、学業成績の秀でた学生、本学の名誉となる活動をした学生に同窓会会長賞を贈呈する(3)卒業生と在校生の交流活動、就職懇談会を行う(4)

全学同窓会の構成員として活動に参加する一を掲げ具現化しています。

また、人文学部創立50周年を記念して「人文学部50周年記念海外留学奨学金」を設立し、グローバル人材育成の一助となるよう、毎年奨学金を授与しています。

さて、表題の『自我作古』(われよりいにしえをなす)ですが、過去はなにも自分の後ろにあるわけではない。自分が過去を作っている。黙っていても過去は、時間の経過とともに過去となる。大事なことは、未来をどう描き、どのように築きあげるかということです。

自分も組織も革新していかなければ、良い現在も未来もない。そうでなければ人間も組織も古びてしまう。人文学部は、人文社会科学部に組織改編となり、また、本同窓会も

名称変更しました。組織も人も古びることなく、常に新たなチャレンジが必要です。そのために、同窓会は、これからの激動の時代を乗り越えていくために、初代会長の思いを継承し、大学並びに現役世代を強く支えていかなければならないと考えています。一緒に「弘前大学の未来」を築くお手伝いをしようではありませんか。皆様のご協力を、よろしくお願ひします。



第11回定時総会懇親会での挨拶

### 特別コラボ企画・座談会

創立70周年記念・学生参加事業を行った計9学生団体中4団体の代表学生：フィルハーモニー管弦楽団・宮前奏一さん、津軽三味線サークル・進藤裕太さん、学祭本部実行委員会・仙順平さん、鉄道研究会・齊藤亘さんと、西澤一治同窓会長、佐藤敬学長を交え、学生参加事業についての座談会を企画しました。

### 学生参加事業について

西澤会長：記念事業後援会の副会長としてまた同窓会長として、記念事業への支援要請のために、

全国の地域同窓会を訪問しました。どこの地域においても卒業生の母校愛を大変強く感じました。学生参加事業は、その母校愛に加え地域の皆様にも支えられていると思います。

佐藤学長：全国には70周年を迎える大学が他にもありますが、年間を通した記念事業の実施は珍しい取り組みです。その中で学生の皆さんが、学生参加事業を記念事業のひとつとしてしっかり位置付

けて、主体的に取り組んでいることは大変素晴らしい、地域の皆様にも高く評価していただいていると思います。



### 学生参加事業に携わって

齊藤さん：大学が創立した70年というの自分生まれのずっと前であるわけですが、その歴史ある70年の節目に、学生のうちから関わることができて幸せです。

宮前さん：記念祝賀会にて弦楽五重奏を披露した仲間からは、70周年の重みのある諸先輩方のお話を伺うことができ大変よい機会だった、と聞きました。70周年記念の定期演奏会では、多くの来場とお褒めの言葉をいただけて、大変嬉しいです。

進藤さん：記念祝賀会にて、僕たち津軽三味線サークルは、弘大囃子組(津軽の祭り囃子等を演奏するサークル)とコラボしたアトラクション

学生参加事業についての座談会

# 教育学部



## ～ 令和の「東京オリンピック」を目前に～ 半世紀以上前の思い出を辿ることになった

元公立中学校長 對馬 弘志  
(昭和42年 保健体育科卒)

1963年、私は弘前大学に入学、そして翌年には文京町に新校舎が完成しました。それで我らは文京校舎と三の丸校舎を往來する良い経験をしました。三の丸には教育学部の男女学生寮や附属小学校・中学校もあり活気あるものでした。寮に友人もいたことからよく寄り道をしたものです。それにしても現在は、「櫻の記念樹」と「弘前大学教育学部旧校舎跡地」という柱が一本立つだけ…寂しい限りです。



1964年はアジアで、また日本で初めてオリンピックが開かれた年で、私とそのオリンピック聖火ランナーの正走者に選ばれたのです。理由は全く分かりません。「保健体育科に在籍していたこと」「早生まれで20歳未満だったこと」「走るのはまあ得意だったこと」でしょうか。大学からもう一人選ばれています。私の一級下の渡辺君です。1回だけ公園内の300mトラックに、1区23名で15区程だったかなあ…300名ほどが集められました。同走者の顔合わ

せと隊列や聖火引き継ぎの要領を確認しました。聖火リレー本番の日は天気の良い日でした。私たちは弘前一区、藤崎町船場四つ角で聖火を引き継ぎ、撫牛子の神明宮までの約1.6km…私の知人は殆ど見られませんでした。沿道には多くの住民が出て声援をしていました。その中に私の父も仕事を抜け出し、借りてきたカメラを構えて立っていました。息子のために…という思いだったのでしょう。掲載の写真がその1枚です。NHKのテレビで「聖火の奇跡」

という番組が放送されています。私も欠かさず見っていますが、街の住民の関心の高さに驚かされました。これを見て私も「すごいことに立ち会ったのだ」という気持ちになりました。ただ、彼ら・彼女らの競技実績やその後の指導者実績はやはり全日本クラスで足元にも及びません。その人達の一角に私もいたと言うだけで充分です。

そのトーチは私の手元に残りました。出番の無いトーチでしたが、その年の秋、教育学部学生寮で行なわれた寮祭と運動会の二度にわたり活躍してくれました。これ以外はトーチが我が家から外に出たことは無いのです。

「聖火の奇跡」と言えば、新採用で赴任し、今別中学校で担任した生徒たちは私の10歳下で毎年同期会を

開いてくれます。昨年の夏も青森市で開かれる会に私を車で迎えに来てくれました。平川橋の所で「我ご走ったんでえな」と言った一言がこんな騒ぎになってしまいました。「なに？なんで走ったの？」。会もこの話でもちきり。もう60歳を超えた元生徒、「奇跡のテレビに出そうと東京でNHKに電話する者」「次の聖火リレーに推薦しようとする者」。まあ良い生徒を持ちました。それが今回の原稿依頼の発端になったのですから…。

もう一つの奇跡は前述の中学校に聖火リレー走者それも弘前で聖火リレーの正走者をした3人、渡辺君・村上君・そして私がそろったことです。1人でも珍しいのに3人も集まるということはやはり「聖火の奇跡」だったかしらと思うこの頃です。



# 医学部 医学科



## 弘前大学医学部100周年を想う

大阪大学大学院医学系研究科 再生誘導医学寄附講座教授 **玉井 克人**  
(昭和61年 医学科卒)

同級生で弘前大学医学部保健学科教授の樋口毅君から「学外にいる同窓生の視点から将来の弘前大学に対する期待や要望」を自由に書いて欲しいという依頼を受け、本稿をしたためています。遺伝性皮膚疾患（表皮水疱症）に対する新しい医療（遺伝子治療）の創出を夢見て、40歳にして弘前大学から大阪大学への移動（当時、遺伝子治療学を標榜する教室は日本で大阪大学にしかありませ

んでした）を決意した日から20年目を迎えようとする私は、新しい医療創出の夢を実現するために20年は本当に短いと思う一方で、30年（あと10年）あればその夢を実現できると思えるようになりました。30年後に100周年を迎える弘前大学医学部が、全く新しい医療を数多く世に創出し、世界中から学生、医師、看護師、医療技術者、研究者が数多く集う、世界の医学部となっているこ

を披露しました。大学の伝統と楽器の伝統が重なって、70周年らしいアトラクションになったと思います。

**仙さん**：学祭パンフレットの中表紙に、過去10年間のパンフレットの表紙をアレンジしたデザインをしました。70周年を実感していただけるパンフレットになったと思います。

### 80周年に向けて

**西澤会長、佐藤学長**：在学生も卒業生も、自分たちの80周年記念事業であるという気持ちで、80周年の節目だけでなく、それまでの10年間の

継続も振り返りながら、主体的に参加いただきたいと思っています。

**卒業生が戻れる場所**  
**宮前さん、進藤さん**：演奏会には卒業した先輩が来て、一緒に演奏することがあります。やはり部・サークルは戻れる場所だと思います。

**仙さん**：毎年の学祭は、戻れる場所になっていると思います。次の学祭は、創立71周年祭と捉えていただいてもいいですし、教職員も参加する総合文化祭という形になってから20回目となります。

**齊藤さん**：例えば図書館などに同窓会ルームのような場所があれば、卒業後も訪れたいです。

**佐藤学長**：卒業生が大学生協食堂に来てくださり、在学生と一緒に食事したりお話しできたりするのもよいですね。

本座談会の記事は、弘前大学公式ウェブマガジン「HIROMAGA（ヒロマガ）」とコラボしています。こちらも是非ご覧ください。



<https://www.hiromaga.com/>

ヒロマガウェブマガジン企画



# 医学部 保健学科



## 保健学科・保健学研究科の歩み

保健学研究科長 **齋藤 陽子**  
(昭和59年 医学科卒)

平成30年4月から医学部保健学科長・保健学研究科長を務めております齋藤と申します。同窓生の皆様に紙面をお借りして保健学科の近況をお知らせしたいと思います。

私は昭和59年、弘前大学医学部卒業ですが、先日大学の同期会が開催され旧交を温めたばかりです。過半数の出席が得られたこともあり、思い出話や近況報告で大いに盛り上がり楽しい時間を過ごし、大学時代の

友人はかけがえがないものだと思感しました。弘前大学の卒業生・教員として同窓会の発展に何かお役に立てるよう努めたいと思いますので、今後も宜しくお願い致します。

保健学科は平成12年に医療技術短期大学部と教育学部特別教科(看護)教員養成課程を統合し設置され、令和2年で20周年を迎えます。一期生の学年進行に伴い、大学院保健学研究科博士前期課程、同後期課程も設

とを夢見ます。

この夢を実現していただくためのヒントは、ラグビーワールドカップの日本チームにあるように思います。一言で申し上げると、「Diversity」[多様性]です。数年前には全く歯の立たなかったティア1の強豪国を次々と打ち破ってベスト8に入った日本ラグビーチームの勝利は、指導者も選手も多様なDNAに委ねた選択の勝利であることを疑う余地はありません。30年後に世界の医学部となる弘前大学医学部は、その目標に向けてどのような多様性を実現すべきか、その答えは若い諸君がそれぞれに、30年後に世界一となっている弘前大学医学部の姿を思い描くことから始まります。

私の脳裏に浮かぶ100周年を迎えた弘前大学医学部の講義室には、米国、欧州、中国、韓国、台湾はもとより、アジアの小国や遠くアフリカ、南米からも、情熱と意欲に溢れた、その国を代表する優秀な医学生や教員が集い、講義は全て英語でなされ、医学部キャンパスの中心には彼らが日本人の学生・教員と共に暮らし、互いに議論し、一緒に笑い涙する世界最大の寄宿舎があります。弘前大学医学部における教育や新規医療開発のための研究の費用は、世界中の数多くの企業との共同研究費や弘前大学発ベンチャー企業の上場による株式によって維持されるエコシステ

置し、校舎も増築され、現在は学部学生約800名、大学院生約120名が学んでいます。保健学科は看護学・放射線技術科学・検査技術科学・理学療法学・作業療法学の5専攻を有し、国立大学保健医療系学部・学科では最大規模です。学生時代に形成された他専攻とのネットワークは貴重な財産になると思います。教員・大学院生においても、被ばく医療や機能性食品等の研究等、専攻・領域の枠を超えての取り組みが盛んになり、研究の質向上にも大きく貢献していると考えています。

令和2年4月からは、医学部の3つ目の学科である心理支援科学科が開設されることとなり、現在学生受け入れに向けて準備を進めています。異なる2学科が同じ校舎で共に学ぶ事になりました。スペースは十分とは言えないかもしれませんが、お互いの職種や立場を理解し、尊重しあいながら学びを深めてほしいと切に願っています。入学定員は10名、専任教員8名で、少人数教育から開始します。心理支援科学科の先生方との教育・研究での連携は、保健学研究科のさらなる発展に寄与するものと期待しているところです。

様々な医療職では近年業務拡大の傾向があり、実践能力も重要視されています。医療の高度化とも相まって、我々教員は多くの時間やエネルギーを教育に割かなければなら

ムが確立し、学費を完全免除する医学部として世界中から注目を集め、多くの企業から派遣された共同研究者が学内を行き交う弘前大学医学部は研究費の国費依存率0%を達成しています。附属病院内には英語、中国語、韓国語に対応するスタッフが新規医療を希望する世界中からの患者に寄り添っており、医師、看護師、医療技術者の半数は海外からの研修者や指導者で占められています。弘前大学を卒業した医師、看護師、医療技術者は初期研修、後期研修、海外研修が義務付けられ、海外研修施設はそれぞれの専門領域で世界最高の医療を提供している病院あるいは世界的医療過疎地域の病院のリストから自由に選択し、それぞれの病院では弘前大学を卒業した先輩が研修と海外生活をサポートしています。そして、90歳を迎えようとしてもなお新しい医学や医療を学びたいと夢見つつ、身体のあちこちがとうに錆びついてしまった同窓生をも受け入れて、彼の残りの人生（もし残っていれば）が有意義に終わりを迎えるための生涯研修（ケア？）システムが確立しています。

思うままに夢を書いてみました。弘前大学医学部に集う若い諸君が、私の夢がちっぽけに思えるような大きな夢を描き、弘前大学医学部を世界の医学部に育ててくれることを期待しています。

のが現状です。学生も大変だと思いますが国家試験合格率100%を目指し、教職員、学生が一丸となって努力しています。

地域貢献を重要視している弘前大学では、県内就職率を高める事も重要な役割です。青森県内では特に看護師不足が深刻とされ、卒業生を県内の医療施設に送り出す事にも大きな期待がかけられています。弘前大学附属病院長からも学内からの就職率を上げるよう要望されておりましたが、病院の方でも真摯に検討して頂き、2019年から奨学金や就職支度金制度を整備して頂きました。該当学生には積極的に活用してもらいたいと思います。

少子化が進む中、優秀な受験生確保も大きな課題です。医療職を育成するという役割がある以上、基礎的な学力に加え適性も重要です。全受験生に面接を課したいところですが、学外試験場で面接を実施する事は難しく、面接を併用する総合型選抜（従来のAO入試）の定員を増やす計画です。これから広報活動を推進する予定ですが、皆さまの周りの方で受験を検討されている方がおりましたら、是非ご案内ください。

今後も同窓会の皆様に応援していただけるような保健学科・保健学研究科であるよう努めますので、引き続きご指導・ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。



# 理 工 学 部



## 第60次日本南極地域観測隊に参加して

自然エネルギー学科教授 小林 史尚

4年前の自然エネルギー学科設立の際に赴任してまいりました小林史尚と申します。専門は、バイオマスのエネルギー変換と環境生物学であり、今後とも研究・教育に精進し邁進していく所存でございます。弘前大学の卒業生の皆様、何卒よろしく申し上げます。

私は、2018年11月から2019年3月まで、第60次日本南極地域観測隊夏隊員として、南極上空の大気バイオエアロゾル（大気浮遊生物粒子）の研究観測に行っていました。顔写真は、昭和基地沖のアイスオペレーションの時に撮影したものです。南極での観測は、第54次南極観測隊での参加に続き2度目です。今回は、昭和基地から約20km離れた標高約600m（氷の厚さもほぼ同じく約600m）の南極大陸の端（昭和基地は東オングル島）のS17観測拠点で私を含めて6名の研究者だけで約1カ月観測を行いました。地上での大気バイオエアロゾル観測に加え、カイトプレーンという無人機を

用いて、高度約1,000mにおける大気バイオエアロゾルの採集に成功しました。サンプルのメタゲノム分析など詳細な生物分析・解析はこれからですが、種々の微生物が上空に飛来していることがわかりました。第60次における私の南極観測の目的は①南極アイスコア微生物の沈着メカニズムの解明 ②アフリカ大陸など他大陸からの微生物長距離輸送の実相調査 ③極域の大気バイオエアロゾル観測です。南極における大気バイオエアロゾルの成果は、生物進化学や系統地理学、医学、植物学、気象学など多くの分野に関りがあり、インパクトを及ぼす可能性があると思われま。

今回は、例年よりもブリザードの襲来が多く、上空サンプリングなど野外観測が順調に実施できず、精神的な焦りと葛藤がありました。S17観測拠点の撤収やラングホブデ袋浦における観測撤収もブリザードの襲来で延期されるなど南極観測の難しさを実感いたしました。また、S17



南極大陸の S17 観測拠点における雪上車と燃料槽

観測拠点は南極大陸にあるため、そこでの観測は昭和基地でのものとは異なり、隊員は雪上車と小屋で寝起きをしながら観測を行いました。水はほとんどなく、風呂に1カ月ほど入れなかったことが生活面で一番困ったことでした。

長期間に及ぶ世界でも有数の積雪寒冷地である南極観測を実施し、無事帰国できたことを、堤隊長・原田

副隊長を含め全ての第60次観測隊メンバー、宮崎艦長を含めしらせに乗艦した海上自衛隊員の皆様やご協力いただいた多くの関係者の皆様にご感謝の意を表します。今後も、これまでの南極観測の実体験を弘前大学における研究・教育に生かしていこうと思っている次第でございます。

# 農 学 生 命 科 学 部



## 『弘前大学が担う地域貢献 —戦略プロジェクト1について』

食料資源学科教授 石川 隆二

弘前大学農学生命科学部では、旧理学部生物学科の流れを組む生物学科から旧農学部各研究分野に加えて新たに食品科学分野の教員7名、国際流通にも精通した教員3名を迎えて80名体制で教育・研究を行っています。それというも国立大学が法人化するときに、重点支援を受ける対策のため弘前大学を含めた55の地方大学が地域貢献を担う選択をしました。その一環として弘前大学では平成28年から戦略プロジェクトが1～4まで立案されました。そのうちの戦略1は3つの取組に分かれ、取組1では「地域の特性・資源の活用に向けた理工系人材の育成—理工学部—」、取組2では「食に関する地域イノベーション創出に貢献できる人材の育成—農学生命科学部—」、そして取組3では「国際競争力のある青森ブランド食産業の創出に向けた“青森型地方創生サイクル”の確立」を行っています。取組1、2は理工学部と農学生命科学部の学部改組に伴って新たな教育体制に取り組

んでおり、その一期生が2019年度で卒業となり、新たに同窓会の仲間入りを果たすことになっています。

農学生命科学部では、生物学科から地域環境工学科までの幅広い分野を担っており、第一次産業が基盤である青森県においては最も地域貢献が求められ、活力を発揮できる分野でもあります。そのため、教育学部、人文社会科学部、理工学部、地域戦略研究所とともに戦略1取組3については多くの教員が参加しています。わたしはその取組3の実施を任されており、学部教員をはじめ文京地区の教員とで青森県に貢献できるプロジェクトの推進に微力ながら貢献させていただいています。

平成28年の改組において農学生命科学部は、合言葉として“ファームto テーブル”を掲げ、魅力ある青森の地域の自然をアピールし、その環境で作られる農作物の効率的な栽培、海産物の効率的な資源回収、それを可能にする育種事業、食品の加工過程による付加価値創出、そして

6次産業化マイスター育成プログラムから産まれた

弘前大新定番!

りんご豚丼

農学生命科学部 国際園芸農学科 石塚 哉史



弘前大学では、地域社会のリーダーを育成すべく、教育力向上に向けた地域志向の教育改革に取り組んでいます。このたび、独自のCOC継続事業として、青森県内の自治体や企業が推進するプロジェクトへ卒業後に即貢献できる人材育成を目的とした「6次産業化マイスター育成プログラム」を実施し、「冷凍リンゴを使った商品開発にチャレンジ!」をテーマに取り組みました。2018年度及び2019度は弘前大学生協、株式会社木村食品工業の協力を得て、学生が冷凍リンゴを使用した新商品「弘前大新定番!りんご豚丼」開発の企画・提案から試食、販売まで実践しました。

本プログラムのインターンシップでは、次世代のリンゴ加工品を探るという目的を設定し、青森県の農業に関するワークショップ、木村食品を中心としたリンゴの流通・加工現場における就業体験を

経た後に、商品開発を始めました。

学生は商品開発のポイントとして、従来の販路がデザート中心である「冷凍りんご」に着目しました。その理由は、デザート以外の販路を開拓できれば、加工用リンゴの需要が創出され、青森県内の産地や農家へ貢献できると想定したためです。

「りんご豚丼」の開発に至ったコンセプトは、プログラムに参加した学生から、講義・ゼミ等で昼食に時間をかけることができないものの、ガッツリと栄養・スタミナのある食事に対するニーズが高い大学生に向けたメニューを取り入れたいという希望がありました。これを実現できる食品として丼を提案したことが、りんご豚丼の誕生した契機となっています。学生達は幾度も大学生協の担当者とのレシピの考案や試食に係る打合せを重ねて、「りんご豚丼」の開発・完成に取り組みました。こ

海外への売り込み戦略を立てることで青森県の活性化を目指しています。具体的には、十和田湖のヒメマス資源の絶対量評価、りんご園の獣害駆除にフクロウを活用する方策、青森県のカタクリから抽出される美白成分の活用、リサイクルによる土壌改良材の開発、温暖化耐性イネ品種の開発、地方在来ナンバの育種改良、白神山地で採取される酵母を活用したシードル・日本酒の開発、匂いセンサーによる果樹の適正収穫の簡易判定、県産品での新たな食品開発、リンゴの海外販売戦略など多様な取り組みがあります。当初立てられた計画以外にも多くの理工学部の教員の方も参加していただいて、人工アシストによるリンゴ収穫作業の負担軽減やリンゴ樹の枝折れ対策も取り組まれています。これらの事

業は県内にいる同窓生の方々にも多大な援助をいただいております。わたしも温暖化に向けた酒米の改良に取り組んでおり、同窓生でもある三浦酒造様からの共同研究をいただいて、新たな日本酒「弘前大学」が醸造できるようにしたいと奮闘しています。これらの成果で文科省重点支援の評価（平成30年度）に弘前大学の取組が第3位に評価されたことにつながりました。これも同窓生の



大型種子サイズで温暖化耐性の改良系統 (R-46)

方々の協力があったことなす。今後とも御協力よろしく申し上げます。



# 二つの楯縁 (楯円)



## 弘前大学全学ラグビー部 弘前大学医学部ラグビー部

弘前大学には二つのラグビー部があり、昭和39年度弘前大学教育学部は東北インカレを、医学部は東医学体を主管するためにほぼ同時に設立されました。その後、教育学部は医学部以外の学部を合同した全学ラグビー部となっています。

### 弘前大学全学ラグビー部



柏木農業高等学校長 高野浩輝 (昭和60年 農学部卒)

令和元年9月20日、ラグビーワールドカップ日本大会が開幕した。その翌日、観戦するために行った札幌ドームで30数年ぶりに同期のY君と会うことができた。彼は、北海道ラグビー協会の役員を務めており、試合終了後に開かれる歓迎会に出席するとのことであった。

このように大学卒業後もラグビー

に関わっているOBは多く、その活躍を見聞するたびにうれしく思っている。

さて、全学ラグビー部は昭和40年1月20日創部で、50年以上の歴史を刻んでいる。私が入部した昭和55年は先輩が少なく、私を含めた未経験者数名が入部したがルールもわからずに試合に出場したほどである。その後は部員も増え、最大のライバル弘前大学医学部に勝てるようになり、東北地区大学大会でも対等に戦えたと記憶している。さらに後輩た

ちは昭和60年、初めて東北一になっており、練習を共にした仲間の頼もしさと結束にあらためて敬意を表したい。

全学ラグビー部は年1回、OB戦と懇親会を行っている。東北地区大学大会の試合方式が変更になってからは、8月後半の土曜日に実施されているが、私は同時期にミニ国体(国体東北ブロック大会)が開催されることから参加できないことが多く、残念に思っている。それでも、平成27年、すぐ下の後輩たちが多数来るからとの誘いを受け、久しぶりに参加した。予定のキックオフ時刻が過ぎても現役の練習に付き合わされてゲーム前から疲れたが、ゲーム最終盤のOBチームのFW一丸となったアタックでボールを受けた私がトラ

イ。思い出に残るOB戦となった。大学ラグビーの大会形式が変更になり、システム上は全学ラグビー部にも全国大学選手権へ出場できるチャンスがある。高いハードルをいくつも跳び越えないといけないが、現役諸君には高い目標を掲げて活動してもらいたい。また、競技力を高めることだけに目を向けることなく、『One for All, All for One』の精神をはじめとするラグビー文化を学び、身に付けてほしい。

OBの皆さん、ラグビーも生涯スポーツです。私は赤パンツをはいてゲームに出る年齢に近づきましたが、できる限りプレーを続けるつもりです。皆さんのご健勝を祈念申し上げますとともに、一緒にランパスができる日を楽しみにしております。



### 弘前大学医学部ラグビー部



いちろうクリニック院長 田村一朗 (昭和61年 医学部卒)

気がついたらラグビー漬け。弘前大学入学後、医学部バスケット部に属していましたが、専門1年の冬、雪上ラグビー大会にクラスメイトと参加、アマチュアの部で準優勝。翌年、同大会で優勝後、ラグビー部員がアパートに毎晩勧誘に来訪。そこで、取った苦肉の策が、昼はグラウンドでラグビー、夜は文京の体育館にてバスケットという条件で入部。

入部後は練習・試合中はOne for All, All for Oneの心で助け合い、切磋琢磨し、チームの勝利という目標に向かって全力を尽くし、ノーサイド後は敵味方なく健闘をたたえ合いました。アフターファンクションも含め、この生き方が最高でした。現在、One for Ladies, All for Ladiesで診療に従事しています。

現役時代は負けが多く悔いが残ったせいか、卒業後も楯円を追い、オー

ル青森にドクター兼選手として出場、赴任先でも大会に参加等、現在も仲間と現役を続けています。さらに弘前で恩返ししたいと思い、雪上ラグビーをはじめ普及活動も行っています。

OB会では、東医体優勝へ向けた学生への支援、毎年現役生とのOB戦を行うほか、津軽雪上ラグビー大会にも出場しています。卒業生の中にも、ワールドラグビーをはじめ、ラグビーに深く携わっている先生方も多くいます。

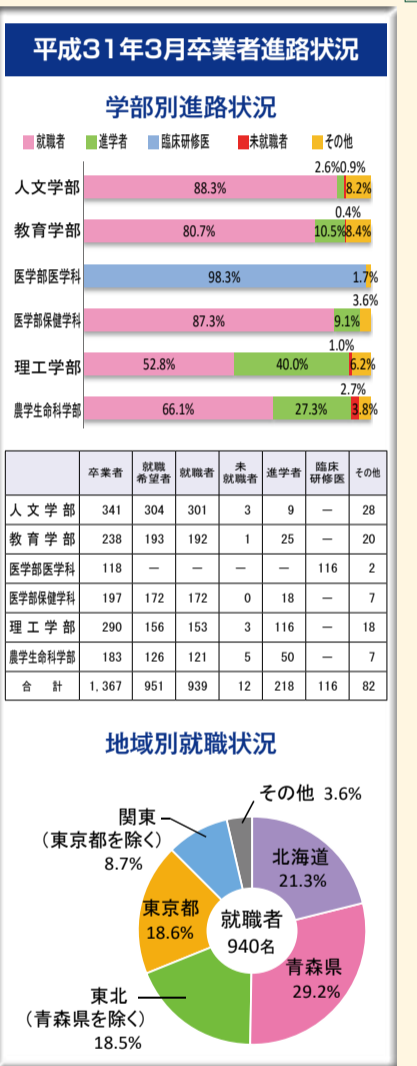
ラグビーには、初対面でも仲良くなれる不思議な力があると思います。同窓生の中にも、今回のラグビーワールドカップでにわかファンになられた方もいると思います。ラグビー(楯円)を通じての、人との出会い(楯縁)を広げたいと思いますので、ぜひラグビーのイベントに足を運んでください。

なお、現在、全学・医学部ラグビー部とも、東北大学リーグで同じ二部にて切磋琢磨しております。

の時期は日々一進一退の状況が続き、弘前大学生協食堂において、学生と大学生協、木村食品の担当者が食材の数量、タレの味、彩りや盛り付け方などについて意見交換を行い、その都度改善を重ねて取り組んでいたことが印象的でした。こうした取り組みを積み重ねた結果が、普段とは異なる食感や味のりんごを堪能できる食品を創出することにつながりました。

以上の取り組みの結果、7月1日に弘前大学生協文京食堂での試食会を経て、7月2～4日及び8月20～21日の5日間で2,000食以上の販売を実現させました。購入者へ実施したアンケート調査結果によると、概ね好意的な評価が多く確認でき、学生発のアイデアでリンゴ加工品の新規販路の拡大への今後の希望が持てる展開になったものと認識しております。

以上のような経験を積んだ学生にはプログラム終了後に「6次産業化マイスター」の称号が授与され、国内外に誇る農産物が豊富に存在する青森県の食産業の未来を切り拓く人材となるよう、期待が膨らむところです。



## 学生派遣事業「World's Challenge Challenge」とは? 弘前大学国際連携本部

World's Challenge Challengeとは、国際サミットで示された持続可能な開発のための17のGlobal Goalsをターゲットとし、世界的な課題解決に向けて学生自らが考えたユニークな解決策について英語でプレゼンテーションをする大会です。この大会はカナダのWestern Universityにて2013年から開催されており、本学は2018年大会から参加しています。本学にて開催される予選大会で優勝した1チームが、本選である世界大会へと進みます。世界大会出場者には、本学からの渡航費助成と、Western Universityからの滞在費(約1週間分)助成があります。

新しいアイデア創出の困難さ

に加え、英語プレゼンテーションというハードルの高さから、参加に際しては大きな勇気が必要となりますが、語学力の向上はもとより、アイデアの具体化、スライドの作り方、立ち振る舞いなどを、英語を基盤として取り組むことができる良い機会となります。



2019年大会の各国からの出場者



左から戸田さん、寺岡さん、佐野さん

2019年の世界大会には、本学から戸田凛多朗さん、寺岡真裕さん、佐野蘭姫さん(いずれも理工学部2年)の3名からなるチームが出場しました。この大会を通して彼らから、グローバルな視点での取り組みを実際に体験し理解できた、世界各国の様々な学生と繋がることのできたなど、自信と達成感に満ちた感想がありました。

## 創立70周年記念事業への寄附 ~弘前大学同窓会から~

本同窓会は、令和元年5月11日に開催された理事会において、創立70周年記念事業へ200万円を寄附することを決定し実施しました。これに対する謝意として、6月24日に感謝状の贈呈式が行われ、西澤一治同窓会長と工藤睦男同窓会事務局長が出席し、佐藤敬学長から感謝状が贈呈されました。





# 弘前大学東京事務所

## 「弘大卒業生の集い」(弘前大学東京事務所主催)のご案内

弘前大学東京事務所は、研究担当理事を所長とし、首都圏における弘前大学の研究紹介、技術相談、産学官連携などの活動拠点として設置され、3名の職員が常駐しています。また、研究に限らず学生・受験生・卒業生の首都圏における活動拠点としてご利用いただくことができます。ここでは、首都圏の卒業生の連携強化を目的とした「弘大卒業生の集い」の活動についてご紹介します。

「弘大卒業生の集い」とは、弘前大学東京事務所の主催により、主に首都圏で働く卒業生の皆様に弘前大学の近況を知っていただきながら、人脈等のネットワーク構築の一助となる場を提供する活動です。さらに今後は、首都圏への就職を考えている在学生へ向けた情報を発信していく活動にも力を入れていく予定です。

2019年2月17日(日)、第1回の「弘大卒業生の集い」を東京都千代田区の「学術総合センター」で開催し、20名の卒業生の皆様に参加いただきました。会では、佐藤学長からの挨拶にはじまり、郡所長からの弘前



佐藤学長による開会挨拶

大学近況報告、卒業生からの自己紹介が行われました。その後の交流タイムでは、弘前大学での思い出話や就職されてからの状況などを話題に、世代や学部を超えた交流がなされ、今後もこのような会を通じて、首都圏にいる卒業生間の交流を深めたいなどの意見が出されました。

第2回は、2020年2月28日(金)に東京都豊島区にある重要文化財「自由学園明日館」で開催を予定(本



郡所長による近況報告



交流タイムの様子

号掲載時点)しています。食事やお酒を用意し、初めて参加される方でも楽しみながら、卒業生間の交流を深めていただけるような企画を用意いたします。

今後開催される「弘大卒業生の集い」への参加を希望される方には、メールアドレスを登録していただくと、開催案内や弘前大学の活動情報などを配信して参ります。東京事務所では、首都圏で働く卒業生の情報を保有していないため、「弘大卒業生の集い」の活動にご興味のある方、ご参加を希望される方に、ご自身の連絡先を登録いただかないことには、卒業生名簿が集まらない状況

です。これから首都圏で就職される卒業生、現在首都圏で暮らしている卒業生、首都圏でのネットワークを構築したい卒業生などが身近にいらっしゃいましたら、お誘い合わせのうえご登録およびご参加いただくと幸いです。



第1回の集合写真

ぜひこの機会に、【弘大卒業生の集い 連絡先登録フォーム】(下記参照)よりご登録ください。また、弘前大学東京事務所のfacebook、twitterをフォローしていただくことにより、弘前大学の近況情報や「弘大卒業生の集い」の開催についてご確認いただけます。そちらも併せてご利用ください。

### 弘前大学東京事務所

【弘大卒業生の集い 連絡先登録フォーム】  
<http://jtokyo.hirosaki-u.ac.jp/form>

〒105-0003  
 東京都港区西新橋1丁目18番6号  
 クロスオフィス内幸町7階 703号  
 TEL : 03-3519-5060  
 FAX : 03-3519-5061  
 E-mail : j-tokyo@hirosaki-u.ac.jp  
 HP : <http://jtokyo.hirosaki-u.ac.jp/>  
 【開所時間】 平日 10時~18時  
 (土日祝日、年末年始、盆休みを除く)

Facebook

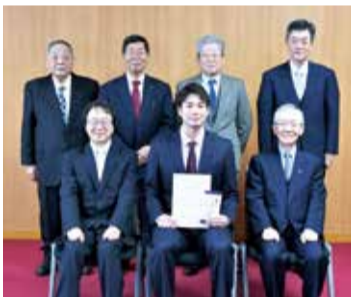
Twitter

## 「吉田基金」TOEIC賞授与式

同窓会では、平成14年より弘前大学の国際化教育(学生)の支援を目的として、TOEICの高得点者(990点満点中900点以上)を対象とし、審査の上で賞状と副賞を授与しています。

本年度は、医学部医学科4年の田村一平さんが915点のスコアで授賞し、令和2年1月17日に授与式が行われました。

西澤同窓会長から、この賞を海外留学の糧にして、英語圏における最先端医学を学んでいただきたいと、また伊藤理事(教育担当)・副学



長から、医学部の講義や実習と並行し努力して得た英語力を、さらに向上していただきたいと、激励を込めた祝辞がありました。

田村さんは、国際学会に参加したことをきっかけに英語学習に取り組み、コツコツ勉強して高得点を得ました。今後は自身の医学研究成果を英語で世界へ向けて発信できるよう、この受賞をバネにさらに精進したいと話しました。

是非この度の受賞を糧にして、世界を視野に入れた今後の活躍を期待します。

名譽顧問	顧問	顧問	顧問	会長	副会長	理事	理事	理事	理事・事務局長	理事	理事	理事	理事	理事	理事	理事	理事	理事	理事	監事	監事													
吉田豊	遠藤正彦	佐藤敬	上野巽	西澤一治	千葉信治	建部礼仁	葛西法男	相馬正栄	工藤睦男	澤田美彦	小山内暢	千上佳男	高山清孝	熊谷幸一	小笠原潤	糠塚いそし	弘前大学元学長	弘前大学前学長	弘前大学学長	農学生命科学部同窓会顧問	医学部医学科鶴桜会理事長	理工学部同樹会会長	人文社会科学部同窓会会長	教育学部同窓会会長	教育学部同窓会副会長	教育学部同窓会副会長	医学部医学科鶴桜会常務	医学部保健学科さくら会会長	医学部保健学科さくら会副会長	理工学部同樹会副会長	農学生命科学部同窓会会長	農学生命科学部同窓会副会長	人文社会科学部同窓会副会長	理工学部同樹会会員

### 平成30(2018)年度 弘前大学同窓会決算報告書

1. 収入の部	前年度繰越分	平成30年度予算額	平成30年度決算額
同窓会費		2,757,437	2,757,437
人文学部同窓会		185,500	185,500
教育学部同窓会		119,000	119,000
医学部医学科鶴桜会		78,400	78,400
医学部保健学科さくら会		140,000	140,000
理工学部同樹会		252,000	252,000
農学生命科学部同窓会		150,500	150,500
預金決算利息		30	27
計		3,682,867	3,682,864
2. 支出の部			
印刷費		390,000	354,489
役務費		299,657	309,407
会議費		50,000	38,231
旅費		7,000	5,760
通信費		6,000	5,258
消耗品費		3,000	4,212
雑費		30,000	20,780
70周年記念事業関係		50,000	0
予備費		2,847,210	2,944,727
計		3,682,867	3,682,864

### 令和元(2019)年度 弘前大学同窓会事業予算書

1. 収入の部	前年度繰越分	平成30年度決算額	令和元年度予算額
同窓会費		2,757,437	2,944,727
人文学部同窓会		185,500	185,500
教育学部同窓会		119,000	119,000
医学部医学科鶴桜会		78,400	78,400
医学部保健学科さくら会		140,000	140,000
理工学部同樹会		252,000	252,000
農学生命科学部同窓会		150,500	150,500
預金決算利息		27	30
計		3,682,864	3,870,157
2. 支出の部			
印刷費		354,489	500,000
役務費		309,407	303,955
会議費		38,231	50,000
旅費		5,760	7,000
通信費		5,258	6,000
消耗品費		4,212	3,000
雑費		20,780	30,000
70周年記念事業関係		0	2,000,000
予備費		2,944,727	970,202
計		3,682,864	3,870,157

### 令和元(2019)年度 弘前大学同窓会事業計画

1. 事業内容	事業費計
(1) 印刷費 ・会報21号作成 380,000円 ・会報1~12号PDF化 120,000円	500,000円
(2) 役務費 ・役務 @1,147円×265時間=303,955円	303,955円
(3) 会議費 50,000円	50,000円
(4) 旅費 7,000円	7,000円
(5) 通信費 6,000円	6,000円
(6) 消耗品費 3,000円	3,000円
(7) 雑費 30,000円	30,000円
(8) 70周年記念事業関係 2,000,000円	2,000,000円
事業費計	2,899,955円
3. その他	
弘前大学創立70周年記念事業へ向けての活動	
令和元(2019)年度 弘前大学同窓会「吉田基金」事業計画	
1. 事業内容	
(1) 国際化教育支援	
2. 事業費	
(1) TOEIC賞副賞 200,000円 ・100,000円×2名分	200,000円
事業費計	200,000円

### 平成30(2018)年度 弘前大学同窓会「吉田基金」決算報告書

1. 収入の部	前年度繰越分	平成30年度予算額	平成30年度決算額
同窓会費		1,800,099	1,800,099
預金決算利息		20	14
計		1,800,119	1,800,113
2. 支出の部			
TOEIC賞副賞		200,000	200,000
予備費		1,600,119	1,600,113
計		1,800,119	1,800,113
令和元(2019)年度 弘前大学同窓会「吉田基金」事業予算書			
1. 収入の部	前年度繰越分	平成30年度決算額	令和元年度予算額
同窓会費		1,800,099	1,600,113
預金決算利息等		14	14
計		1,800,113	1,600,127
2. 支出の部			
TOEIC賞副賞		200,000	200,000
繰り越し・予備費		1,600,113	1,400,127
計		1,800,113	1,600,127

## 編集後記

◇創立70周年記念事業が盛大に開催された。佐藤学長、遠藤会長をはじめ、ご支援ご参加いただいた同窓生を含め、全ての関係者に心から感謝したい。そしてこの結集力を継続的に繋いでゆきたい。  
 ◇次の節目へのスタートを機に、今号から横書きスタイルに切り替えた。同窓生各位の目にはどのように映るだろうか。  
 ◇在学生にもこれまでより多く紙面に登場いただいた。キャンパスに「いた方」のための会報に加え、キャンパスに「いる方」と「いた方」を結びつけるための会報になれば幸いである。

## 私たちが編集しました

- 委員長 一條健司
- 副委員長 濱田茂樹
- 委員 中坪勝 泉谷安規 對馬浩二
- 福島成利 田村一期 樋口毅
- 小枝周平 千葉満 芹田美穂子
- 泉完 津田良司 伊森英明
- 工藤睦男



弘前大学同窓会事務局  
 ☎0172(39)3490